

専門学校麻生リハビリテーション大学校

課程修了の方針（ディプロマ・ポリシー）

理学療法学科

当大学校の「教育理念」「教育目標」に則り、理学療法学科では以下の能力を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける力
(知識と技術の向上のために、自ら学び、鍛錬する意欲と能力)
 - ・思いやりや基本的な礼儀・マナーを備え、「主体的に行動できる力」「疑問を持ち論理的に考える力」「多様な人々と良好なコミュニケーションを取り協働できる力」を備えた社会性を持ち続けることができる。
 - ・目標達成のための計画を立案・遂行できる能力を有し、社会のニーズ及び医療の進歩に対応するために、自己研鑽を継続できる。
2. 多様な視点から物事を捉え、異なる意見を理解する力
 - ・文化・社会の多様性を多角的に捉える幅広い教養と豊かな人間性を有し、他者の意見を理解・尊重し目標を達成することができる。
 - ・人を支援する専門職の一員として自己の責任を理解し、多職種間の信頼関係を構築し、協働する能力を有することができる。
 - ・保健・医療・福祉の諸制度を総合的に理解し、他職種との協働精神をもって患者及びその家族、関係者に向き合うことができる。また、関係者との会話・討論を通してチームの方向性を示すリーダー的役割を担うことができる。
3. 専門的知識・技能を修得し、実践する力
 - ・医療専門職としての自覚を持ち、常に疑問点を解決する力、根拠に基づく新しい知識・技術を身につける努力を主体的に継続できる。
 - ・理学療法学分野に関する基礎的な知識及び技術を活用できる能力を有し、ニーズに応じて安全に理学療法を実施することができる。
 - ・健康増進・予防の場においては、対象者の声を傾聴し多様な価値観も共感して、身体的・心理的・社会的な支えとなることができる。
 - ・医学の進歩と未来の社会システムの変化を見据え、自己の専門性を発揮して地域社会に貢献する意欲と能力を有することができる。
4. 総合力
 - ・基盤能力と専門知識・技能を総合的に活用し、社会の変化に応じて理学療法学をより学術的・臨床的・教育的に発展させ地域社会の発展に貢献できる。

作業療法学科

当大学の「教育理念」「教育目標」に則り、作業療法学科では以下の能力を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 高い倫理観
 - ・他者の尊厳を尊重し、敬意を持って接することができる。
 - ・医療従事者として志を持ち、職務への責任感を持つことができる。
 - ・今ある自分に感謝し、他者への奉仕の心を持つことができる。
 - ・約束を守ることができる。
2. コミュニケーション能力
 - ・気持ちの良い挨拶ができる。
 - ・基本的な報告、連絡、相談ができる。
 - ・素直な気持ちで相手の意見を聞き、人間関係を構築できる。
 - ・相手の話を傾聴し、共感できる。
 - ・診療チームの一員としてメンバーと意見交換し協力して行動できる。
3. セルフマネジメント（自己管理）能力
 - ・様々なストレス要因に対して心身の健康を維持できるよう自己管理ができる。
 - ・自分が成長するために、自ら課題を発見し、要因分析を行い、計画的に課題を解決することができる。
4. 高度な知識と専門技術
 - ・社会人として職務を遂行していくための基本的な知識や技能を有している。
 - ・作業療法士としての基本的な医学的知識、作業療法専門知識を有しており、代表的疾患の症例について作業療法臨床思考過程を説明できる。
 - ・自ら学ぶ姿勢と探求心を持ち続け、作業療法士としての研鑽に努めることができる。
 - ・作業療法士として、人の想いを感じる感性を持ち、人の健康と幸福を促進する生活の支援ができる。
 - ・多職種の専門性を理解したうえで、作業療法士の専門性を発揮しチームアプローチができる。
5. 個人や社会の多様性を尊重し、地域で活動する力
 - ・地域の課題や求められていることを発見し、解決する為の活動や研究に従事できる。
 - ・多様性を尊重しグローバル社会へ貢献できる。

言語聴覚学科

当大学の「教育理念」「教育目標」に則り、言語聴覚学科では以下の能力を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 感謝の心と志

- ・心身ともに健やかであるための自己管理能力を持つことができる。
- ・チームにおける言語聴覚士としての役割を言語化することができる。
- ・言語聴覚士としての志を持ち、自分の言動に責任を持つことができる。
- ・患者・者様、御家族があり、言語聴覚士として働くことに感謝し、敬意を表す行動ができる。

2. 高度な知識と臨床技能と思考技能

- ・社会人としての基礎知識、常識を持つ。
- ・医療職としての基本的な人体の構造・機能・疾患に対する知識を持っている。
- ・各分野における基本的評価技能、指導技能を身に付けている。
- ・セラピストとして典型的な症例について、全ての分野において模擬症例を通して実践のプロセスを計画することができる。
 - ・明確な正解のない臨床的課題に対して、探求心を持ち、自ら考え論理的に説明することができる。

3. コミュニケーション能力

- ・素直な気持ちで相手の意見を聞き入れ、様々な背景の幅を超え、友人関係も含めて関係性を築くことができる。
- ・他者や対象者の立場に立ち、気持ちに寄り添えるように傾聴し、必要に応じてメモを取ることができる。
- ・明瞭かつ適切な大きさの声で自分の考えを丁寧に相手に伝えることができる。
- ・相互に意思表示がしやすい雰囲気自ら作ることができる。

4. 問題解決能力

- ・自ら問題に気づき、課題を設定し、優先順位を決め、相談の上で具体的に行動することができる。
- ・困難に直面した際に問題点を細分化し整理することが出来る。
- ・悩みを抱え込まず、援助を求めることができる。
- ・定期的に振り返りを行い、自らの良かったことを振り返り、次の行動につなげることができる。
- ・学習計画を自分で立てることができる。
- ・学んだことを友人に説明することができる。